日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
教会教育部

教会学校　教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1．みことば

祈りながら今週のテキスト（聖書箇所）を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、憶えましょう。

2．主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例　○：イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように
カナで奇跡を行いました。（×：カナの婚礼と奇跡）

3．教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4．メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。
◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト　http://ce.ag-j.or.jp/

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教　師　ノ　―　ト

日付	2015年　1月　4日
単元	士師記・ルツ記
テーマ	選び
タイトル	ギデオンの選び
テキスト	士師記6：1－40
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　ヨシュア1：9　or　イザヤ41：10

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
　幼稚科2巻-主題4－課10　小学下級3巻-主題3－課6　小学上級1巻-主題2-課9

❑導入
　今日は、ヨシュアさんが亡くなってからのイスラエルのお話です。

❑ポイント1　イスラエルの人たちは主に助けを求めました
　イスラエルの人たちは、本当の神様のことを忘れ、自分たちがつくった神様を拝んでいました。ですから神様は、イスラエルの人たちがミデアン人に苦しめられていても、7年間黙ってみていました。

　イスラエルの人たちは、ミデアン人がとても怖かったので、山にある、洞窟やほら穴に身を隠していました。イスラエルの人が種をまいて野菜などを育てても、ミデアン人が大勢やって来て、作物を荒らし、食糧をぜんぶ奪って持っていってしまうのです。羊も、牛も、ろばもいなくなりました。もうどうすればよいのかわからなくなったイスラエルの人たちは、まことの神様に、「助けて下さい」と叫び求めました。

　神様は、一人の預言者を遣わしてお答えになりました。「私は、あなたがたをエジプトでの奴隷生活から救い出しました。また、エジプト人やたくさんの敵の手から助け出し、この地を与えました。そして私は、あなたたちに『偽物の神を拝んではいけない』と命じました。それなのに、あなたがたは命令に従いませんでした。」とおっしゃいました。

❑ポイント2　主はギデオンを選ばれました
　ある日、神様の使いがギデオンのもとを訪れました。ギデオンは、ミデアン人に見つからないように、酒ぶねの中で、小麦を打っていました。御使いはギデオンの前に立って、「勇士よ、神様はあなたと共におられます」と言いました。ギデオンは答えました。「それならば教えて欲しいことがあります。神様が共におられるのならば、なぜ、こんなに悪いことばかり起こるのですか。もう神様は、私たちを見捨ててしまわれたのではないでしょうか。」

　すると神様は、ギデオンに命じました。「私があなたを強くします。イスラエルをミデアン人から救い出すのです。私があなたを遣わします。」ギデオンはビックリして答えました。「神様、とんでもありません。イスラエルをミデアン人から私が救うなんて、そんなこと出来っこありません。私は、本当に弱い者です。」すると神様が言いました。「よく聞きなさい。神である私があなたと共にいる。だからあなたは必ずミデアンの大軍を打ち破れる。」ギデオンは、信じることが出来なかったので言いました。「もしそれが本当なら、その証拠にしるしを見せて下さい。」そして大急ぎで家に帰り、御使いのために肉料理とパンとスープを作って運んで来たのです。

　御使いはギデオンに命じました。「肉とパンをそこの岩の上に置いて、スープをかけてみなさい。」言われたとおりにすると、御使いは手にしていた杖で、肉とパンにさわりました。すると、たちまち岩から火が燃え

上がり、肉とパンを焼き尽くしてしまったではありませんか。その瞬間、御使いの姿は見えなくなりました。ギデオンは、その人が神様の使いであったとわかりました。ギデオンは、神様が自分を選んで下さったことを信じました。そしてそこに祭壇を築き、「主との平和の祭壇」と名づけました。

その夜、神様はギデオンに「イスラエルの人が拝んでいるバアルの像などの偶像を壊しなさい。そして私のために、祭壇を築き直しなさい。」と命じました。そこでギデオンは、神様の命じられたとおりにしました。ただ、家族や町の人々の目が気になったので、誰も見ていない夜中に行いました。
次の朝、町の人たちがバアルの像などが壊されているのを見つけると大騒ぎです。彼らは誰がやったのかを調べ回り、ついに、ヨアシュの息子ギデオンのしわざだと突き止めました。人々はギデオンの父親のヨアシュを怒鳴りつけましたが、父親はギデオンがしたことが正しいことを悟って、息子をかばいました。

❑ポイント3　主はギデオンにしるしを与えました
それからしばらくして、ミデアン人がイスラエルを攻めるためにやって来ました。神様の霊に満たされたギデオンが角笛を吹き鳴らすと、一緒に戦おうという仲間がたくさん集まりました。またギデオンが各地に使者を送り、戦士を募集すると、多くの戦士が集まってきたのでした。

けれどもたくさんの戦士が集められてもギデオンの心にはまだ恐れがありました。ですから、ギデオンは神様に願い出ました。「お約束どおり、イスラエルを救うために私を選んで下さっているならば、もう一度しるしを見せて頂きたいのです。」「今夜、打ち場に羊の毛を置いておきます。もし明日の朝、羊の毛だけが露でしめり、土がかわいているなら、神様がついていて下さると信じることが出来ます。」すると、そのとおりのことが起きました。羊の毛だけがびっしょりぬれていました。

次の晩、ギデオンはもう一度神様にお願いしました。「どうか、怒らないで聞いて下さい。もう一度だけ試させて頂きたいのです。今度は反対に、羊の毛だけをかわかして、地面全体をしめらせて下さい。そうして神様が、イスラエルを助けて下さることのしるしとしたいのです。」神様はギデオンの願いどおりにして下さいました。その夜、羊の毛はかわいたままで、地面は露でおおわれたのでした。

ギデオンは、「私があなたと共におる」という約束がはっきりわかり、神様が助けて下さると信じることが出来ました。そしてこの戦いはイスラエルは勝つということがわかったのです。

❑結論　ギデオンは主に選ばれたことを確信しました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. 神様はギデオンを選ばれたようにあなたを選ばれました。選ばれていることに感謝しましょう。

2. 神様は、あなたを選びあなたを通して何かをしようとしておられます。神様の導きは聖書の御言葉やお祈りによって知ることが出来ます。聖書を読むことやお祈りをすることを続けましょう。

3. 奉仕をするときに、自分の力ではとても出来ないと落ち込んだことはありませんか。無力で弱い私たちを選んで下さった神様は必ず共にいて私たちを支えて下さいます。神様を信頼できるようにお祈りましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2015年　1月11日
単元	士師記・ルツ記
テーマ	神の戦い
タイトル	ギデオンと300人
テキスト	士師記7：1-23
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　イザヤ41：10　or　申命記28：2

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
　小学下級3巻-主題3－課7　小学上級1巻-主題2-課9

❑導入

　今日のお話はギデオンがミデアン人と戦うお話です。そしてこの戦いでは武器を使いません。武器を使わず戦うってどんなことでしょうか？

❑ポイント1　ギデオンはミデアン人との戦いのために兵隊を集めました

　ミデアン人と戦うために、ギデオンは角笛を吹いて兵隊を集めました。ギデオンの角笛を聞いていろいろな所から、大勢のイスラエルの兵士がやってきました。ギデオンは集まった大勢の兵士たちと戦いに出かけました。対するミデアン軍も備えをしていました。この時イスラエル軍は三万二千人。ミデアン軍はそれをはるかに上回る十三万五千人でした。

　その時、神様はギデオンにこうおっしゃいました。「兵隊の数が多すぎます。ミデアンとの戦いに勝利した時、自分たちの力で勝ったつもりになって自慢をするといけません。ですから人数を減らしなさい。戦うのが怖いと思っている者たちを、さっさと家に帰してしまいなさい。」ギデオンは神様に言われたとおりに、戦うのが怖いと思っている者たちを家に帰しました。すると二万二千人もの人たちが帰って行きました。残った人は一万人です。

　ところが神様は、「まだ多すぎる。全員を川に連れて下りなさい。だれがあなたと共に行くべきか、はっきり示してあげよう」と言われたのです。ギデオンは、みんなを川に連れて行き水を飲ませました。多くの人は地面に手をついて、かがみこんで口を水につけて飲みました。またある人たちはしゃがんで、手で水をすくって飲みました。すると神様の声がして兵隊の選び方を教えて下さいました。「一つは、手で水をすくって飲んだ人たちを集めなさい。もう一組には、かがみ込んで、口を水につけて飲んだ人たちを集めなさい。」手で水をすくって飲んだのは、三百人だけでした。ほかの人はみんな、口を水につけて飲んだのです。
　神様ははっきり言われました。「私は、この三百人でミデアン人を征服する。残りはみんな家へ帰らせるがよい。」そこでギデオンは、兵隊の持っている角笛と壺を置かせてから、三百人だけを残し、あとは全員帰らせました。
　この三百人で十三万五千人のミデアン人と戦うのです。本当に大丈夫なのでしょうか。ギデオンは、神様がおっしゃるとおりにしました.

❑ポイント2　ギデオンはミデアン人の陣地に偵察に行きました

　さてその夜のことです。神様はギデオンに命じられました。「起きなさい。全軍を率いてミデアンの陣地に攻撃しなさい。必ず勝利します。それでも恐れがあって心配なら、配下のプラを連れて敵の陣地へ入って行って、いったい敵陣ではどんな話がされているか、自分の耳で確かめてみなさい。きっと勇気が湧いてきて攻撃できるはずです。」

ギデオンはそっと敵の陣地へ入って行きました。音をたてずに、人もらくだも起こさないように注意をして行きました。そこにはミデアンの兵士たちが数え切れないほどたくさんいました。
ギデオンは近くのテントで敵が仲間と話をしているのを聞きました。「今、いやな夢を見たよ。大きな大麦のパンのかたまりが、この我々の陣地めがけて転がり落ちて来るんだ。それでな、俺たちのテントをペシャンコにしちまうんだ。」もう一人の兵隊が答えました。「その大きなパンのかたまりはイスラエル軍のことだ。つまり神様が、俺たちをギデオンやイスラエル人に負けさせてしまう。この戦いは神様によってギデオンが勝つように決められているんだ。」
この話を聞いたギデオンは、本当に神様がこの戦いに、勝利をもたらして下さることを確信し、神様に感謝の礼拝をささげました。

❑ポイント3　ギデオンは神様に言われたとおりにミデアン人と戦いました
ギデオンは、すぐに自分の陣営に帰って来ました。そして兵士たちに言いました.「集まれ！神様は我々の手にミデアンの大軍を渡して下さるぞ。神様が我々に勝利を下さる。」

ギデオンは三百人を百人ずつ三つの部隊に分けました。そして全員に角笛と壺を持たせました。壺には、たいまつが隠してありました。そして作戦の説明をしました。「私たちは三つの部隊で進みます。敵の最前線に着いたら、私がするとおりにしなさい。私が角笛を吹くまでは、静かにしていなさい。私と私の部隊の者が角笛を吹いたら、みんなもいっせいに角笛を吹き鳴らしなさい。そして、『神様のため、ギデオンのために戦うぞ』と叫ぶのです。」

ギデオンの率いる百人が、ミデアン軍の前線に忍び込んだ時は真夜中でした。ミデアン人たちは何も知らずにぐっすりと眠っています。他の部隊の二百人の兵隊たちも片手に角笛を持って、もう一つの手にはたいまつを入れた壺を持って近づいて行きました。
ギデオンが合図の角笛を大きく吹き鳴らしました。彼らはいっせいに角笛を吹き鳴らし、壺を打ち砕きました。暗やみの中で、たいまつがぱっと燃え上がります。みんながいっせいに大声で叫んだのです。「神様のため、ギデオンのために戦うぞ。」何とすごい音だったでしょう。その様子はまるで大勢の兵隊たちがやって来たような音でした。
ミデアン人たちは皆、ビックリして飛び起きました。そして外を見てみると、陣地のまわりにはたくさんのあかりが見えました。実際は三百人なのに、そんなことを知らないミデアン人には、自分たちよりずっと大勢に見えました。彼らは悲鳴をあげて逃げ出しました。また、あるミデアン人たちは敵と味方の区別がつかないで味方同士で戦っていました。

神様が教えて下さった方法で、イスラエル人たちは敵を追い払うことが出来ました。戦争が終わった時、ギデオンの兵隊は一人もけがをしていませんでした。たった三百人で十三万五千人のミデアン人に勝利することが出来たのは、神様が一緒にいて下さったからです。

❑結論　ギデオンは300人の兵士でミデアン人に勝利しました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）
1．ギデオンたちは、少ない人数で敵に勝利しました。私たちクリスチャンも、学校などでは少数です。でも人数が少なくても、神様が共にいて下さるならば、勝利者となれます。勝利者となれるようにお祈りしましょう。

2．戦いに勝ったのは、ギデオンやイスラエル人が強かったからではなく、神様が命じられたことに従ったからでした。神様に従うことが出来るようにお祈りをしましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2015年　1月18日
単元	士師記・ルツ記
テーマ	誘惑　神の力
タイトル	サムソンの力
テキスト	士師記13:1－16:31
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
箴言1:10 or マタイ26:41

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
小学下級3巻-主題3－課8　小学上級1巻-主題2-課10　中学3巻-主題4-課11

❑導入

今日は、イスラエルの人たちがまたもや、自分たちが作った神々を拝む罪を犯した。そんな時代のお話です。神様は、イスラエルをペリシテ人が征服するにまかせたので、四十年間もその支配下に置かれることになりました。

❑ポイント1　サムソンはイスラエルを救う者として誕生しました

ある日のこと、天の使いが、一人のイスラエルの女の人(マノアの妻)の所に不思議な知らせを持って来ました。天の使いは、「あなたは男の子を生みます。いいですか、ぶどう酒や強い酒を飲んではいけません。また生まれて来る子の髪を切ってはなりません。その子は、神様に仕える人として、生まれた時から特別に選ばれています。やがてその子は、イスラエルをペリシテ人から救い出すことになります。」と言いました。

聞もなく、約束どおりに男の赤ちゃんが生まれました。名前はサムソンとつけられました。サムソンは、神様に祝福されて、すくすくと育ちました。大人になった時には、神様が強くして下さったので、イスラエルの国中で一番強い人になりました。

ある時、サムソンが歩いていると一頭の若いライオンに出会いました。そのライオンはサムソンに襲いかかりました。その瞬間でした、激しい力が神の霊によってサムソンに注がれたのでした。サムソンは武器を持っていませんでしたが、素手でライオンのあごをつかむと、真っ二つに引き裂いてしまいました。まるで子やぎを引き裂くようにです。サムソンにとっては簡単なことでした。

またサムソンは、大勢の兵隊に捕まえられたことがありました。太くて強いなわで縛られて捕らえられてしまったのでした。そんなサムソンに神様の力が注がれました。その時です。太くて強いなわは、まるで糸のようにぷっつり切れ、手首から落ちてしまいました。すかさずサムソンは、そこに転がっていたろばのあご骨を拾い上げ、あっという間に、千人のペリシテ人をなぎ倒してしまいました。

❑ポイント2　サムソンはデリラの誘惑に負けてしまいました

サムソンの強さの秘密は、生まれる時に言われた神様の命令を守っていたからです。それは、髪の毛を切らない、ということでした。このサムソンの秘密を知っている入はだれもいません。

サムソンは、デリラというペリシテ人の女の人を好きになりました。このデリラをペリシテ人の領主が直接訪ね、「サムソンの力の秘密を探って欲しい。この仕事を引き受けてくれたら、お金を差し上げます。」とお願いをしました。デリラはこのことを引き受けました。

間もなくして、デリラはサムソンに会った時に、力の秘密を打ち明けて欲しいとお願いしました。するとサムソンは自分の力の秘密を教えてくれました。デリラは喜びました。

しかしその教えてもらった力の秘密はウソであることがわかりました。するとデリラは、またサムソンにお願いをして力の秘密を聞き出しました。
しかしその教えてもらった力の秘密はウソであることがわかりました。デリラは「なぜ私をだますのですか？私を好きならば本当のことを教えて下さい。」と言いました。
そして何度も何度もしつこくサムソンに秘密を教えてくれるようにお願いしました。サムソンはついに秘密を打ち明けました。「実は、おれは髪の毛を切ったことがないんだ。もし髪の毛を切ってしまったら、おれの力もおしまいだよ。」

デリラはさっそく、ペリシテ人の領主にこの秘密を伝えました。デリラはサムソンを眠らせると、髪を切ってしまいました。そしてペリシテ人の兵隊を呼びました。
サムソンは目を覚まし、兵隊と戦う準備をしました。彼は神様の力が自分から無くなっていることに、気づいていませんでした。あっという間にペリシテ人にやられてしまいました。サムソンは捕まえられてしまいました。そして目を取られて、青銅の足かせをはめて牢屋に入れられてしまいました。しかしその間にも、サムソンの髪は少しずつ伸びていました。

❑ポイント3　サムソンは神の力を頂いて敵を倒しました
ある日、大勢のペリシテ人が、サムソンの逮捕を祝うお祭りをしました。人々は彼らの神にいけにえをささげ、熱狂的に賛美しました。
そして酔いが回ったころです。「サムソンを連れ出せ！見せ物にして楽しもうじゃないか」という声があがったのです。サムソンは牢屋から連れ出され、神殿の中央の大屋根を支える二本の柱の間に立たされました。人々はサムソンをバカにしてからかいました。

サムソンはそれを聞いて、前に自分が強かったことを思い出しました。そして「神様、どうかもう一度、私のことを思い出して下さい。いま一度、私に力をお与え下さい。」とお祈りをしました。

サムソンは、全力を振り絞って自分が寄りかかっていた大きな柱を押しました。神様は祈りを聞いて下さり力を与えられました。彼は、「ペリシテ人もろとも死なせて下さい」と叫びました。
すると大きな柱は倒れ、その場にいたペリシテ人全員の上に建物がくずれ落ちたのです。
ペリシテ人はその下敷きになって、みんな死んでしまいました。サムソンも死にましたが、天の使いが言ったように、ペリシテからイスラエルを助け出したのです。

❑結論　サムソンはイスラエルを敵から救いました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）
1．サムソンは神様を信じないペリシテ人の女の人と仲良くなり、誘惑され神様の力を奪われてしまいました。私たちも誘惑に負けてしまわないように、いつも神様から力を頂きましょう。

2．昔は特別な目的のために特別な人に聖霊が注がれましたが、今はすべての人に注がれています。求める者には聖霊が与えられ満たされます。神様は私たちがいつも聖霊で満たされることを願っています。聖霊の満たしを祈りましょう。

教　師　ノ　―　ト

日付	2015年　1月25日
単元	士師記・ルツ記
テーマ	祝福
タイトル	ルツ
テキスト	ルツ1：1－4：22
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　詩篇37：5

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
　幼稚科1巻-主題4－課13　幼稚科2巻-主題4－課12　小学下級3巻-主題3－課9

❑導入

　今日のお話はルツという女の人が登場します。ルツは神様を愛し、人を愛して正しく生活をしました。神様はこのような人を祝福して下さいます。

❑ポイント1　ルツはまことの神様を知りました

　ずっと昔、イスラエルにはまだ王様がいませんでした。ギデオンのような士師（さばきつかさ）が人々を治めていた頃のお話です。

　イスラエルを大飢饉が襲いました。そのため、イスラエルを出て食べ物を得ようとする家族がいました。ベツレヘム出身のエリメレクとナオミ夫妻の家族です。家族はモアブという所に移り住みました。二人の間にはマフロンとキルヨンという息子がいました。

　ところが、モアブで暮らしている間に父のエリメレクは死に、ナオミと二人の息子が後に残されたのです。

　やがて二人は、モアブの娘と結婚しました。マフロンの妻はルツ、キルヨンの妻はオルパと言いました。ルツもオルパもモアブに住んでいたので、まことの神様のことは聞いたことがありませんでした。

　ルツとオルパは、ナオミやご主人たちと一緒に住んでいる間に、イスラエルの神様のことを知りました。ルツは本当の神様を礼拝することを覚えたのです。

❑ポイント2　ルツに試練が与えられました

　何年かたって、ルツのご主人もオルパのご主人も死んでしまいました。残されたのはナオミとルツとオルパの三人だけです。三人の生活は本当に苦しいものでした。

　ナオミはしかたなく、二人の嫁を連れてイスラエルへ帰ろうと決心したのです。それと言うのも、故郷は神様のおかげで、再び大豊作に恵まれたと伝え聞いたからでした。

　しかし、帰郷の途について間もなくでした。ナオミは考えを変えて、二人にこう言いました。「あなたたちは、私について来るより実家へお帰りなさい。いままで本当にありがとう。いい再婚の相手が見つかるようにお祈りしていますよ。」ナオミは自分と共に行くことは、彼女たちが知らない土地に行くことになり、幸せが待っているとはとても思えなかったのです。

　ナオミが別れの口づけをすると、二人はわっと泣きくずれ、涙ながらにすがりつきました。それからオルパは、ナオミと別れ郷里へ帰って行きました。

　しかしルツは、本当の神様を教えてくれたナオミのそばから離れようとしません。ルツはナオミに言いました。「お願いです。お義母さん、私を一緒に行かせて下さい。わたしはお義母さんと一緒に暮らしたいのです。私もイスラエル人です。イスラエルの神様は私の神様です。」と言いました。ナオミは、ルツの決心が堅く、これ以上説得してもむだだと知ると、もう何も言いませんでした。

こうして二人は、ナオミが以前住んでいたベツレヘムに帰り着きました。村中がそのことで喜びました。女たちは、「まあ、本当にナオミですか」と大騒ぎです。しかし、ナオミはこう答えました。「主人や子どもたちは死んでしまいました。苦しいことばかりでした。神様に、見捨てられた感じです」。
二人がモアブからベツレヘムへ帰り着いたのは、ちょうど大麦の刈り入れが始まった頃でした。麦を刈る時には大抵、貧しい人のために少し麦を畑に残しておきました。ルツとナオミは食べ物がなかったので、ルツは落ち穂を拾いに行きました。ルツはベツレヘムの人を全然知りませんでした。

❑ポイント3　ルツに祝福が与えられました

ルツはボアズという人の畑に入りました。このボアズはお金持ちでナオミの親戚でした。ルツが落ち穂を一生懸命に拾っていると、ボアズが、畑で働いているしもべとお話をしに来ました。そしてボアズはルツを見て、「あそこにいるのは、どこの娘さんですか」と尋ねました。しもべたちは、「あれはナオミと一緒にモアブから来た娘です」と言いました。
ボアズは、ルツが神様を信じたことや、ナオミに親切なことを聞いて知っていました。ですから、しもべたちに、「ルツには親切にするように。そして、わざとたくさん麦の穂を落して拾いやすいようにしなさい」と言いました。

またボアズはルツには、「いつも私のところに来て落ち穂を拾いなさい。そして、御飯もしもべたちと一緒に食べなさい」と言いました。
ルツはボアズにお礼を言いました。そして「どうして、私みたいな者に、そんなに親切にして下さるのですか。私はよそ者です」と聞きました。ボアズは、それまでにルツについて聞いていたことを話しました。
こうしてルツは、一日中、そこで落ち穂を拾い集めました。夕方になって、集めた大麦の穂を打ってみると、本当にたくさんでした。
ルツは喜んで食べ物を持って家に帰り、ナオミに今日のことを話しました。ナオミは、「心から神様に感謝しましょう。ボアズはお父さんの親戚です。麦が無くなるまでその畑にいなさい」と言いました。ルツは刈り入れの間中ずっとボアズの畑に通い落ち穂を拾い続けました。ナオミはそんなルツが幸せになることを願っていました。

ある日、ナオミはルツに話しかけました。「私はあなたが、ボアズさんと結婚出来るように祈っています。ぜひ私たちを助けてくれるようにボアズさんにお願いしてみなさい」
そのころイスラエルでは、夫を亡くした女性を親戚の男の人が助けるという決まりがありました。ルツは、ナオミに言われたとおり、ボアズに自分の願いを伝えました。するとボアズは、「神様があなたを祝福して下さるように。私は親戚としての役目を果たします」と言いました。
ボアズはルツと結婚するための正式な手続きを取りました。そして二人は結婚しました。やがて元気な男の子が与えられました。その子は「オベデ」と名付けられました。オベデは、後にイスラエルの王様となるダビデのおじいさんに当たる人です。

❑結論　神様はルツを祝福されました

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1．ルツはナオミと一緒にいて神様を知ることが出来ました。私たちもナオミがルツに神様を伝えたように、近くの人に神様のことを伝えることが出来るようにお祈りをしましょう。

2．神様に頼り生活するならば、神様は必ず守って下さいます。いつも神様に信頼し頼ることが出来るようにお祈りをしましょう。